

2018 年度

点検・評価報告書
－アセスメント結果の概要－

文学研究科

<評価分科会構成員>

季武嘉也・鈴木邦彦・高橋強・舟生日出男・金子弘・山岡政紀・P.Horness
木村正紀・小谷広美

<今年度の目標>

アセスメント・ポリシー／アセスメント・プランに基づく学習成果の測定及び可視化の
点検・評価

<分科会開催日程と議題要旨>

・第1回 5月23日

- 1 今年度の方針の提示
- 2 学生参加の方法について討議
→ 現況では、院生代表者は研究科別ではなく文系院生代表者1名となっているので、誰を代表とするか決定しがたいため、参加については保留とする

・第2回 10月31日

- 1 全学自己点検・評価委員会資料、および文学研究科各専攻専修のアセスメント項目・アセスメント指標に基づき、今年度の方針である「アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果の測定及び可視化」について検討。今年度はアセスメント対象科目を選定し、ループリックを作成して院生に回答してもらう方法とすることに決定。まず金子弘教授が各専攻・専修に共通するようなループリック案を作成し、それを基に各専攻・専修がそれぞれアセスメント指標を作成することとなった。
- 2 完成版にむけてのスケジュールの確認
- 3 中間報告書の作成

・第3回 11月28日

- 1 中間報告の修正方針の提示
- 2 金子教授よりループリックのサンプルの提示があり、それを基に各専攻・専修でそれぞれのループリックを作成することに着手
- 3 対象とする科目は経年変化が得られるような必修科目を含む各専攻専修で2科目程度とする。具体的には、
博士前期課程 専攻ごとに「～研究法」
博士後期課程 共通の「特別研究指導」 など

・第4回 2月14日

- 1 各専攻、専修で作成し、院生が回答したルーブリックの結果を集計して検討した。人文学専攻、教育学専攻、国際言語教育専攻（日本語教育専修、英語教育専修）については、未提出のため、至急提出をお願いした。

<最終分科会における検討内容>

- 1 ルーブリックで ABCD 4 段階評価を作成した場合、「普通」をどのようにランク付けるのか、今後さらに検討することになった。
- 2 院生記入のルーブリックの ABCD 評価と、教員側が作成する GPA の ABCD 評価(大学院の場合、「A」が多い)について、整合性をどのようにつけるか今後さらに検討することになった。
- 3 アンケートに対する姿勢について、日本人学生と留学生に違いが生じているため、今後どのように整合性をとるか検討することになった。
- 4 今後の学習成果の測定及び可視化の対象として、以下のようなことが検討することになった
 - ・教員も同じルーブリックで回答してみる
 - ・院生が少ない専攻専修の場合のアセスメント科目の選定をどうするか
 - ・測定対象として、以下のようなことが可能か否か
 - シュリーマン賞数・TOEIC 点数
 - 卒業生進路 教職 研究職 企業 公務員など
 - 学会報告・論文本数